

N P O

中帰連平和記念館

CHUKIREN HEIWAKINENKAN

友の会 会報 vol.1

〒350-1175
埼玉県川越市笠橋1947-25
TEL: 049-231-9706
2008年5月31日発行

戦争と平和の問題を考える
あなたの書斎として
どうぞごゆっくり
お使いください



五月のごあいさつ

仁木 ふみ子

不順な天候続きですが、みなさまお変わりございませんか。
二〇〇六年一一月三日、開館してもう一年半がたちました。
その間当館をお支えいただきまして大変感謝申し上げております。

「若い人たちがこれを読んで戦争と平和の問題を考えてほしい」と託された中帰連の皆様の二〇〇〇冊余の本は、学者や、友の会のみなさまの共感を得てご寄贈が続き、今では五万冊あまりの書物を擁する図書館になりました。

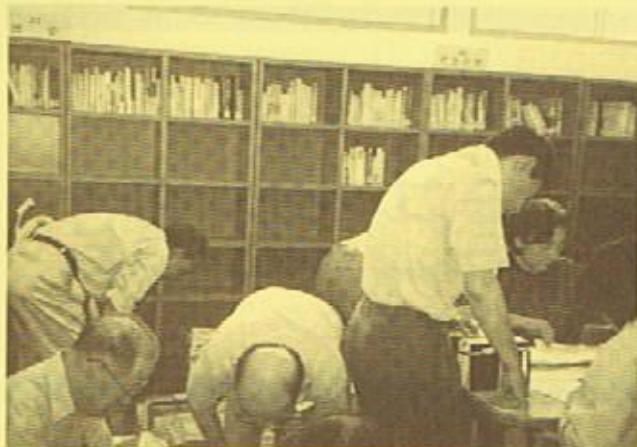
また三千冊余の児童書、絵本を持つことでも図書館を付設しています。これも伝え聞いたみなさまが全国から送ってくださいました。人に対するやさしい気持ちは、幼児の時の童話ではなくあります。よそのおねえさんや、おばさんからも本を読んでもらえる経験や、おしゃべりを聞いてもらえる経験は、信じていいおとなたちがいることを無意識のうちに体験させることにもなります。

水、土、日の開館日には、関東ブロックの「受け継ぐ会」の各県が当番を組んで、當時事務室に二~三人いられる態勢で、来客への対応や、図書の整理事務に当たっています。旅費もさしあげられない完全なボランティアでのこの記念館は支えられています。これも現代の日本では奇蹟なのかもしれません。

図書の分類は、NDC(日本十進分類法)によりますが、今写真とビデオテープの分類と、保存のためのDVD化を、担当は考えています。専門家の方は、お知恵をお貸しください。

今回の報告は、まだお出になれない方のために、写真を多く使いました。

どうぞあなたの記念館をご想像くださいって折を見てお出かけください。



▲2003年 7月 国友さんの荷物書搬入 リストと照合



▲分類 整理

元都立大学山住総長の本の搬入と整理



▲2トントラックで4往復
(阿佐ヶ谷→五稲)

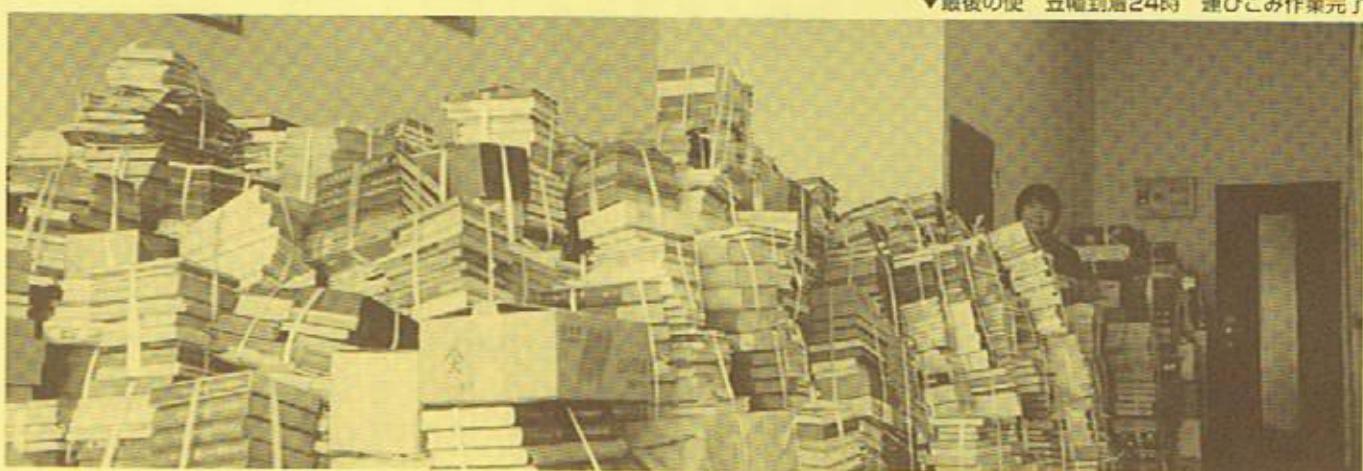


▲搬入と整理



▲山住家蔵段書架整理

以後7箇所から中帰連関係資料搬入



▼最後の便 笠置到着24時 航びこみ作業完了

○ 開館の日 2006.11.3



▲ぼくたちもテープカット 2007.3.27



▲大河原おじいさんと「おおきなかぶ」をぬきました



▲児童の部屋



▲小・中学生の読み物

来館者

*シカゴから

開館してまもなく「成田からまっすぐきました」と現れたのはトニー・張さんでした。シカゴの新聞でこの記念館のことを見たといいます。かれは実業家ですが、「今の世の中いやなことが多すぎるので、人間に希望が持てる話を探してある」といいます。彼の父は大戦中香港で負傷するのですが、銃剣で止めをさすため、倒れている人の生死を確かめて歩いている日本兵と日が合ったのですが、かれは知らん顔して通り過ぎていった。あの人がないなければ戦後、お前は生まれていなかつたと、父からよく聞かされたといいます。それから香港の母を見舞う途次立ちよつてくれるようになりました。もう二回現れています。かれは友人たちからは「ドン・キホーテ」といわれていています。

*シカゴ大学大学院女子学生

彼女も新聞を見てきたといつて来館しました。「共同」の外信の記事を、「アメリカンタイムス」でみてきたのです。彼女は「七三一部隊で使われた薬剤はどの製薬会社が提供したものか知りたい」といいます。どの図書館もそんなの無理だと相手にしてももらえないかったといいます。あるといいけれど山住さんの部屋に案内しました。彼女は半日床に座り込んで棚の本を丹念にみていましたが、とうとう見つけてコピーを嬉しそうにもちかえりました。彼女は台湾系のアメリカ人でした。

*シカゴ大学大学院男子学生

同じ月今度は、同じ大学院の男子学生が現れました。この三人は同じ新聞の媒体で記念館にたどり着いたのですが、お互いを知らない人たちでした。この男子学生は日系四世でした。沖縄の問題を知りたいといいます。かれも山住さんの沖縄の棚の前の床にすわりこんで半日見ていました。

来館者

各地の平和委員会、九条の会、靖国の会、人権センター等の団体や、キリスト教の諸宗派が一緒におりでくださったり、ひとりでお訪ねくださったり、支部集会を見学方々記念館で開いてくださったり、開館以来この一年間に来館された方は千人を超えます。

自由の森の生徒たち

自由の森の生徒たちが絵場さんのお話を聞きたいと藤沢に出かけていったのは、今年の一月の寒い日でした。生徒一〇人と社会科の先生四人（校長を含めて）。大勢で行くと、ご家族にも迷惑をおかけするので、駅の近くに会場を借りました。そういう出話は藤沢に住む卒業生によつて行われました。絵場さんは、そこへお出でくださつて戦前の文部省での経験をお話くださいました。

自分の先生たちの著書を文部省の基準に照らしてチェックするのが絵場さんの仕事でした。先生を売るようなことはできないと、絵場さんは、文部省を辞めてしまわれるのですが、絵場さんのこの頑固さはお父様ゆずりのものであつたようです。あとの生徒の質問に答えられる中で、このことは明らかになりました。この高一の生徒たちはちょうど日本の近代史を学び終わつたところでした。

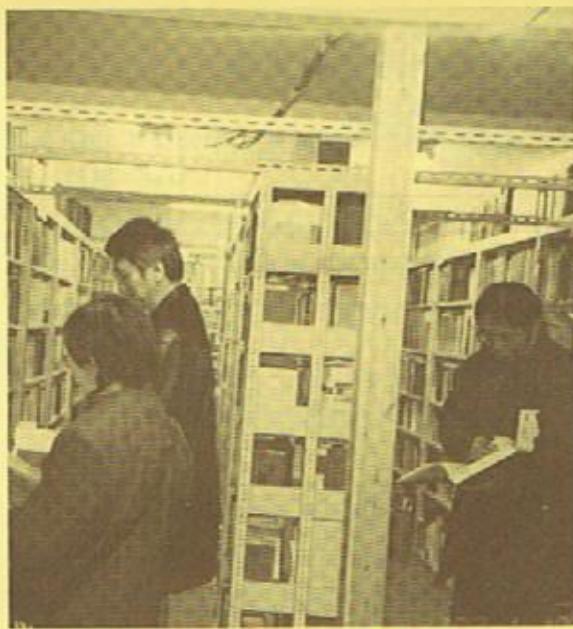
二日あとに、女生徒が三人記念館にやつてきていました。絵場さんの話は、他のグループが映像を使って報告しますが、私たちは中帰連とは何かを報告することになりました。何をみたらいいでしょうか。中帰連の資料の前に連れて行くと、的確に資料を取り出し、的確に要約し、的確に質問してきます。四時間彼女等につきあいました。帰りに写真をコピーしたいので本を貸してほしいといいます。一週間後に返しにきますと、いつ、約束の日に二人揃つて返しにきました。にこにこしているので発表はうまくいったのと聞くと「はい」といいます。学年集会ではなくて、全校生徒と父母の前で「絵場さん」と中帰連の報告が出来たわけです、私も大にこにこでした。



▲広島高教組の平和研のメンバー。内木美術館、(吉見の白穴を含む)当館、県平和資料館の3点セットで見学に来られました。

下羽先生を悼む

下羽先生ご夫妻が東京国際大学の学生一〇名を連れて記念館にきてくださいたのは、九月のはじめでした。ガイサンシーの映画を見た後來てくださいたのです。活発な学生たちでした。ここで中帰連の勉強をしたあと、山西省の大学生と交流のため中国に行くのだといつていました。下羽先生は、自分の学生を東アジアの学生たちとつないでこられた方です。もう帰られた頃かなと思っていると、一〇人分のレポートがつきました。記念館で分かつたことと、ガイサンシーの土地で分かつたことがづられていました。お札も書かないうちに、届いたのは下羽先生の讣報でした。一人ひとりは自分で考えて下羽先生の道を歩いていきましょう。



▲元都立大学総長 山住正巳さんの教え子の教授たちが山住研究会をつくられました。



▲興隆県の無人区を訪ねた方々の中から当時の日本の宣教のあり方を研究するグループができました。



▲ベルリン自由大学の教授ペトラさんは、今年も来られて、中帰連の分裂と統一について、高橋さんに質問されました。古渕忠之さんについて書かれたご自分の論文を持ってきてくださいました。



▲その翌日、ボストン大学の教授セラピーさんを連れてきてくださいました。セラピーさんの最大関心事は日本の憲法改正の動きです。



▲記念館では、作業メンバーを中心に読書会が続いている。松村高夫さんの「日本帝国主義下の植民地労働史」を読み上げました。1章の導入と、6章の七三一部隊に関する部分は、松村さんご自身で講義をしてくださいました。20人くらいのメンバーは交代で、レポートしています。松村さんはこの1年間はイギリス滞在。先月から、読書会は、「宋慶齡」を読みながら、中国史を勉強することになりました。関心のある方は、事前に電話連絡の上、おいでください。(049-231-9706)

平成19年度特定非営利活動に係わる事業会計収支計算書

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

特定非営利活動法人中帰連平和記念館

単位：円

科 目	金額	
I 収入の部		
1 会員年会費	1,092,000	
2 寄付金	3,791,264	
3 借入金収入	0	
4 立替金戻入	3,000	
5 預かり金	10,000	
6 雑収入	60,447	
当期収入合計	4,956,711	
前期繰越収支差額	736,620	
収入合計		5,693,331
II 支出の部		
1 事業費		
修繕費	45,885	
事務用品費	144,381	
通信費	571,180	
消耗什器備品費	775,387	
印刷製本費	206,181	
光熱水道料	150,333	
会議費	23,407	
旅費交通費	43,000	
賃借料	113,400	
司書謝礼	480,000	
租税公課	224,700	
雑費	45,577	2,823,431
2 固定資産取得費		
仮払金(土地)	0	
建物	0	0
3 借入金返済		
短期借入金返済	2,500,000	
預かり金支払い	10,000	
立替金	3,000	2,513,000
当期支出合計		5,336,431
当期収支差額		356,900
次期繰越収支差額		356,900

会計担当 長坂光行

SOS! の発信です

※1、雨が漏り始めました。コピー室にバケツをおいています。

専門家に見てもらうと、屋根の面積がひろいので、修理の費用は、50万円くらいかかるそうです。目下当番素人が、屋根にのぼったり、屋根裏をはって雨漏りの場所を探したりしていますが、らちがあきません。運営委員会で、トタン屋根を自分たちの手で塗り替える案も出ましたが、素人作業の後は、専門家は、してくれなくなるそうです。

※2、この倉庫の売主が、置いていってくれた床据え置きのエアコンが、いよいよ使えなくなりました。古いので部品がなくて修理不能といいます。閲覧室は広く天井も高いので、家電のものでは、間に合いません。また据え置きのエアコンを引き取るところもありません。ダイキンに壁掛け式のを見積もらせましたら工事費（引取りを含む）込みで44万8千円でした。

※3、駐車場（30坪、300万円）を購入する予定でしたが、大河原さん、高橋さんと相談して、昨年、お金がないので、キャンセルしました。この辺は、栗林でしたから、どこにでも車はおけました。いまは、栗の木は、切り倒され宅地になって、家が建てはじめられ、車をどこにでも置くことが出来なくなっていました。

当面、経常経費のための会費の納入と

※1、2、のためのカンパをお願いいたします。

どうぞ助けてください。

記念館の経費について

この記念館の経費はすべてカンパでまかなっています。土地83坪 建物55坪も中端連のみなさまのカンパで購入できました。

内装費（床・壁張り・網戸・階段つけ）、備品費（書架・机・椅子等）も何とかまかないました。これから経常経費は「友の会」の会費とカンパでまかなうことになります。友の会の年会費は一般会員一口5,000円、維持会員一口10,000円とします。

この建物はいずれ改築を迫られます。そのときのために備蓄もしておきたいのでカンパをお寄せいただると大変助かります。額はご自由に。

送り先

埼玉県川越市笠幡1947-25
中郷連平和記念館
振替番号00150-6-315918

ただいまの友の会の会員数は次の通りです。

	2006年度 (06.8~07.3)	2007年度 (07.4~08.3)
維持会員	86人	38人
一般会員	105人	128人
カンパ	204人	123人

会報がおくれ、次年度の会費納入のお願いをしていませんでしたから、こういう数字になったのでしょうか。当方の怠慢ですみませんでした。最近二年分ですとふりこんで下さる方もあるらわれて、振替用紙もお送りしていないのにと、お気遣いに感謝しています。

この会報は、二部入れておきます。知人をお一人友の会の仲間にお説明いただけると会員は、倍になるわけですから、よろしくお願ひいたします。呼びかけていただく為の会報をもっと利用していただける方は、必要部数をお申し出ください。おおくりします。よろしくお願ひいたします。

NPO中帰連平和記念館

友の会へのお誘い

私どもは、次の世代を担う若者たちに、戦争と平和の意味を考えてほしいとたくさんの本を残された中帰連の方々の思いと、それに賛同してご自分の蔵書を寄贈してくださいました。研究者の皆様の熱い思いに感動し、この平和記念館を国民の遺産として守り育てて行くのは、国民の義務であろうと考えています。この記念館の経営経費は、今までこれからも、すべて「友の会」の経費、カンパでまかなっています。このことになります。

私どもは、この中帰連平和記念館の設立の趣旨に賛同し、「友の会」へのお説明を呼びかけるものです。どうぞあなたのお力をこの中帰連平和記念館の存続、発展のためにお寄せください。この呼びかけの輪が日本列島の津津浦浦にまで広がりますように、みなさまのお力を貸しください。よろしくお願い申し上げます。

二〇〇七年二月一五日

呼びかけ人

大田 勿（元日本教育学会会長）

堀尾輝久（元日本教育学会会長）

梅原利夫（和光大学教授）

吉田 裕（一橋大学教授）

岡部牧夫（歴史研究者）

姫田光義（中央大学教授）

松村高夫（慶應大学教授）

吉見義明（中央大学教授）

渡辺 治（一橋大学教授）

野田正彰（関西学院大学教授）

田中 宏（龍谷大学教授）

本多勝一（ジャーナリスト）

斎藤貴男（ジャーナリスト）

岡本 厚（「世界」編集長）

上杉 聰（日本の戦争責任資料センター）

内海愛子（恵泉女学園大学教授）

梓沢和幸（弁護士）

米倉 勉（弁護士）

大鷗雅子（弁護士）

日中友好元軍人の会

不戦兵士・市民の会

日本戦没学生記念会（わだつみ会）

平和遺族会全国連絡会

日本中国友好協会

関東日中平和友好会

仁木ふみ子（中帰連平和記念館館長）

中帰連平和記念館

開館日について

開館日 水・土・日

時間 10:30~17:00

(12月~1月は16:00まで)

休館日 月・火・木・金・年末年始

はじめておいでの方は、

前日までにお電話をください。

TEL 049-231-9706

ご寄贈いただけませんか

- ・戦争と平和に関する本
- ・師団史、連隊史、大隊史等、当時の軍隊事情が分かる本
- ・その他歴史の研究書
- ・ご自身・ご家族の戦争・戦時体験を書かれたもの
- ・子どものえほん、読み物など
- ・幼児から、小学生、中学生までのもの

「中帰連平和記念館 友の会」の会員になってこの記念館運営を支えていただけませんか

NPO中帰連平和記念館友の会 会則

- この会は「NPO中帰連平和記念館友の会」という。
- この会の事務所を川越市笠幡1947番地25におく。
- この会は会費によってNPO中帰連平和記念館の運営を支える。
- 年間会費は次のように定める。

A 一般会費	5,000円
B 維持会費	10,000円
- 友の会の会員には年2回運営状況を報告する。
- 友の会の会員は、この記念館を利用できる。
- 記念館の運営については、NPO中帰連記念館の理事会に於いて決定し、執行する。

